

一般質問通告書 9月議会

令和5年9月13日

番号	件名	氏名
1	中間貯蔵施設の今後の進め方と抗議活動への対応	柏田真一
2	災害時に利用できる港の建設	柏田真一
3	中間貯蔵、調査容認の撤回を	山戸孝
4	町の将来像、まちづくりのビジョンは	山戸孝
5	中間貯蔵施設の安全性に対する町長の考え	古泉直紀
6	町長の公約“住民に寄り添った町政”について	秋山鈴明
7	使用済み燃料 中間貯蔵施設の調査・検討を受け入れた町長の思いについて	右田千賀子
8	中間貯蔵施設建設にかかわる調査受け入れが与える影響について	清水康博
9	中間貯蔵施設に対する住民への理解活動は	海下竜一郎
10	中間貯蔵施設が地域振興策に繋がる考えを伺う	海下竜一郎

7人 10件

定例会一般質問通告書

令和5年第3回上関町議会定例会（9月）

◆質問者1 柏田 真一	
質問事項	質問要旨
中間貯蔵施設の今後の進め方と抗議活動への対応	<p>先日開かれた事業者の説明会や臨時会の際、町内外の方々による阻止活動により中止に追いやられたり警察が出動する事態となった。このような過激かつ暴力的な抑圧が続けば町民が恐怖を覚えるうえ、誰も望まない分断に繋がりがかねない。</p> <p>今後このような行為が繰り返されないよう安心して話し合えるような環境を整える必要があると思うが、それについての町長の対策や考えは。</p>
災害時に利用できる港の建設	<p>2020年11月に上関大橋の破損し多くの町民が不便な思いをする事態が発生した。また上関大橋は重量制限があり災害時等に重機を運搬することが難しいと考えられる。</p> <p>このような事態でも町民がなるべく日常に近い生活が送れるよう、フェリーが着岸できる港を長島側と室津側に建設しておく必要があると思っている。この件について町長の考えをお尋ねしたい。</p>
◆質問者2 山戸 孝	
質問事項	質問要旨
中間貯蔵施設、容認の撤回を	<p>先日町長が判断した中間貯蔵施設の問題について、調査容認を判断するまでの期間があまりにも短く、町民を置き去りにするような判断をしてしまったことなどから、反発や戸惑いを感じている町民や周辺住民がいる。私は反対の立場だが、それ以前に今回の進め方そのものが誤っているのではないか。</p>

	<p>同時に中間貯蔵施設誘致など核に関する問題は町民の安心安全な生活を守るという視点や今後の町づくり・地域づくりという視点からも上関町だけで判断してよい問題なのかと疑問を感じる。</p>
<p>町の将来像、まちづくりのビジョンは</p>	<p>町長は昨年の初当選の際、上関原発問題については推進の立場を表明されていたが、中間貯蔵施設については全く触れていない。これは町長の中で考えるまちづくりの当初の構成に修正変更があったと考えられる。</p> <p>町長が中間貯蔵施設建設に肯定的である以上、仮に建設された場合の上関町の将来像・今後のまちづくりのビジョン、町長の言われる「持続可能な町」というのはどのようなものか示して貰いたい。</p>
<p>◆質問者3 古泉 直紀</p>	
<p>質問事項</p>	<p>質問要旨</p>
<p>1. 中間貯蔵施設の安全性に対する町長のお考えについて</p>	<p>私自身、中間貯蔵施設の建設可能調査については以前に他の町議と東海第二発電所中間貯蔵施設を視察したときに、その安全性を確認し調査を実施することに賛成の意見を述べさせていただいた。しかし、町民からは中間貯蔵施設がどのようなものかわからず、ニュースや新聞等の取り上げ方から安全性に対して疑問視する声が上がっている。</p> <p>西町長も町議の時代に中間貯蔵施設を視察に行き、その安全性を十分踏まえた上でこの度の調査・検討をご了承されたものと推察している。今一度、中間貯蔵施設の安全性に対する町長の認識をお聞かせ頂きたい。</p>

◆質問者4 秋山 鈴明

1. 町長の公約“住民に寄り添った町政”について

中国電力による中間貯蔵施設立地可能調査の申し入れから受け入れ表明までの流れは、町民にとって非常に関心度が高く、賛否の分かれる事柄ということは町長もご承知いただいていると思う。

先日の臨時会でも伝えた通り、私はできるだけ様々な立場の人に意見を聞き、賛否以前に立場上表立って言えないなど、多くの懸念や不安の声が聞こえてきた。町長が本当に“住民に寄り添った町政”を掲げるのなら、そういった住民たちの声も拾うべきではないか。

また、民主主義とは全ての人が平等に扱われるのが前提であり、多数決は徹底した対話と議論をした上での最終手段で行われるものである。

そして、町長が公約に掲げた“住民に寄り添った町政”は多数派だけでなく少数派の住民をも指すものであれば、少数派により丁寧に寄り添う姿勢が求められる。

町長が公約に掲げた“住民に寄り添った町政”とは「少数派含むいかなる立場の住民」を指すことによるしいか。

◆質問者5 右田 千賀子

1. 使用済み燃料 中間貯蔵施設の調査・検討を受け入れた町長の思いについて

令和5年8月2日に中国電力から中間貯蔵施設建設の調査・検討の申し入れがあり、18日に議員の話を聞いて受け入れることとなった。

上関町では少子高齢化で人口減少が、町の活気もなくなっているように感じているが、もし中間貯蔵施設ができればそこで働く人が町に入ってくるとともに町に活気が生まれてくるのではないか。

また、予算も交付されるので町民に手厚い行政サービスをなすことができると期待される。

ただ町内では、今回の調査を町長が受け入れた理由を直接聞かれた方は少なく、ほとんどの方は新聞やテレビなどで断片的にしか聞いていないと思われる。そこで、改めて町長から今回の調査をなぜ受け入れたのかという理由について、この場で確認したい。

◆質問者6 清水 康博

<p>1. 中間貯蔵施設建設にかかわる調査受け入れが与える影響について</p>	<p>町長が中間貯蔵施設の調査受け入れを表明した8月18日以降にあがった周辺自治体の首長・住民の声を町長はどう受け止め、対応していくのか。</p> <p>また、原子力発電所の問題で40年以降住民が苦しい思いをしてきたにも関わらず、地域振興策として新たな原子力関連施設を誘致しようとしていることに対して抵抗はないのか。それは他の振興策を十分に検討したうえでの判断なのか。</p>
<p>◆質問者7 海下 竜一郎</p>	
<p>1. 中間貯蔵施設に対する住民の理解活動は</p>	<p>当初、中間貯蔵施設についてはメディアで放送された情報から疑問の声が多く聞こえました。</p> <p>しかし最近では中国電力からの話を聞き、理解を示してくれている町民もいれば、うまく伝わっていない方もいると感じた。中には原子力発電所計画には反対だが、中間貯蔵施設は別物だからと理解してくれる住民もいた。</p> <p>中間貯蔵施設は町の将来をかけた大きな課題なので我々議員も住民に説明をしていく義務・必要がある。今後の住民への理解活動の展望を伺いたい。</p>
<p>2. 中間貯蔵施設が地域振興策に繋がる考えを伺う。</p>	<p>現在の町は少子高齢化が顕著で、収入財源のほとんどが地方交付税で成り立っているという状況になっている。このままの状況が進めば、住民への負担が増え町の存続の危機だと思っている。</p> <p>町長はこの厳しい財政状況の中、中間貯蔵施設調査の検討をし、まだ具体的なメリット等は算出できない部分もあるが操業開始すれば町が存続していくのに十分な交付金が入ってくると聞いた。</p> <p>現時点での中間貯蔵施設が地域振興にどうつながっていくのか町長の考えを伺いたい。</p>